



“地域のことは地域で考えよう”

2018年6月28日

## おきぎん県内景況・速報 2018年5月

— 県内景況は、拡大している —

### ■ 個人消費

スーパー売上高は全店ベースが、前年同月を上回り、既存店ベースは下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。  
家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は上回る。

### ■ 建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。  
生コン、セメントはともに前年同月を上回る。

### ■ 観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数は下回る。  
ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回る。

### ■ 企業倒産

件数は前年同月を上回り、負債総額は下回る。

## 現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2018年5月分)

◎2018年5月 おきぎん「カトリア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

5月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは、前年同月を上回りました。既存店ベースは、前年同月を下回りました。百貨店売上高は雑貨などが伸び、前年同月を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、白物家電が伸び、前年同月を上回りました。新車販売台数は、普通乗用車や小型乗用車などが伸び、前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、沖縄県やその他の公共的団体発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を上回りました。

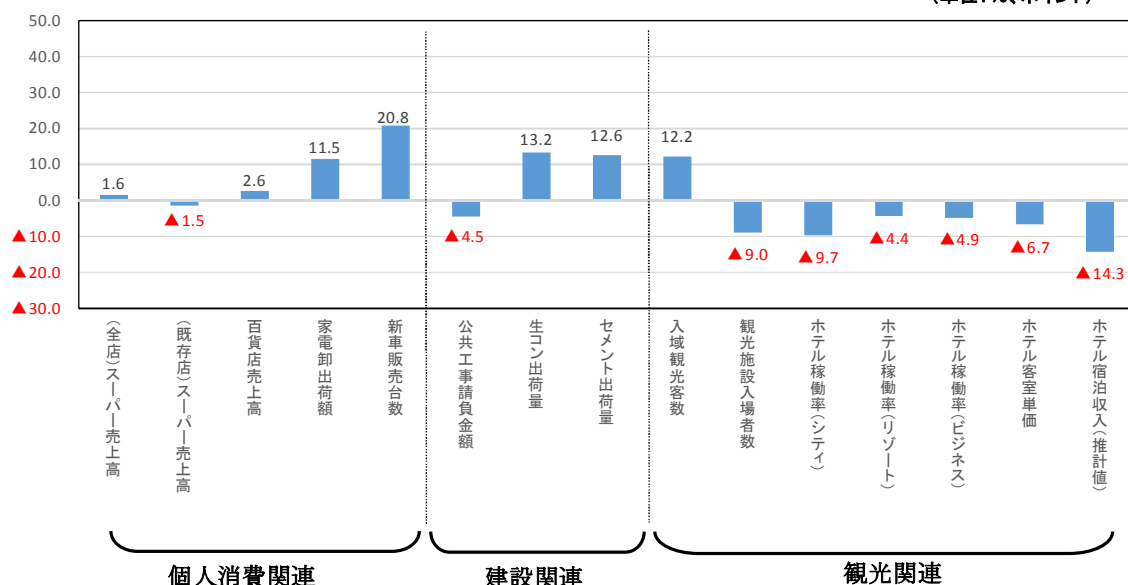
観光関連では、入域観光客数は68ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数は前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入(推計値)も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から52ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比

(単位: %、ポイント)



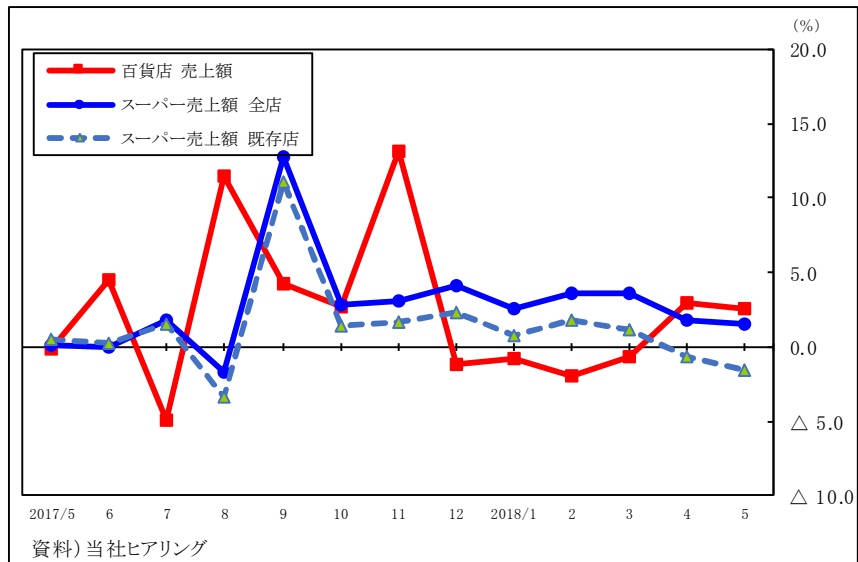


■個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を上回る。

単位：%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2017/5	0.1	0.5	△ 0.1
6	△ 0.03	0.2	4.5
7	1.8	1.5	△ 4.9
8	△ 1.7	△ 3.4	11.5
9	12.8	11.1	4.2
10	2.8	1.4	2.7
11	3.1	1.7	13.2
12	4.1	2.3	△ 1.2
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8
2	3.6	1.8	△ 1.9
3	3.6	1.2	△ 0.6
4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6



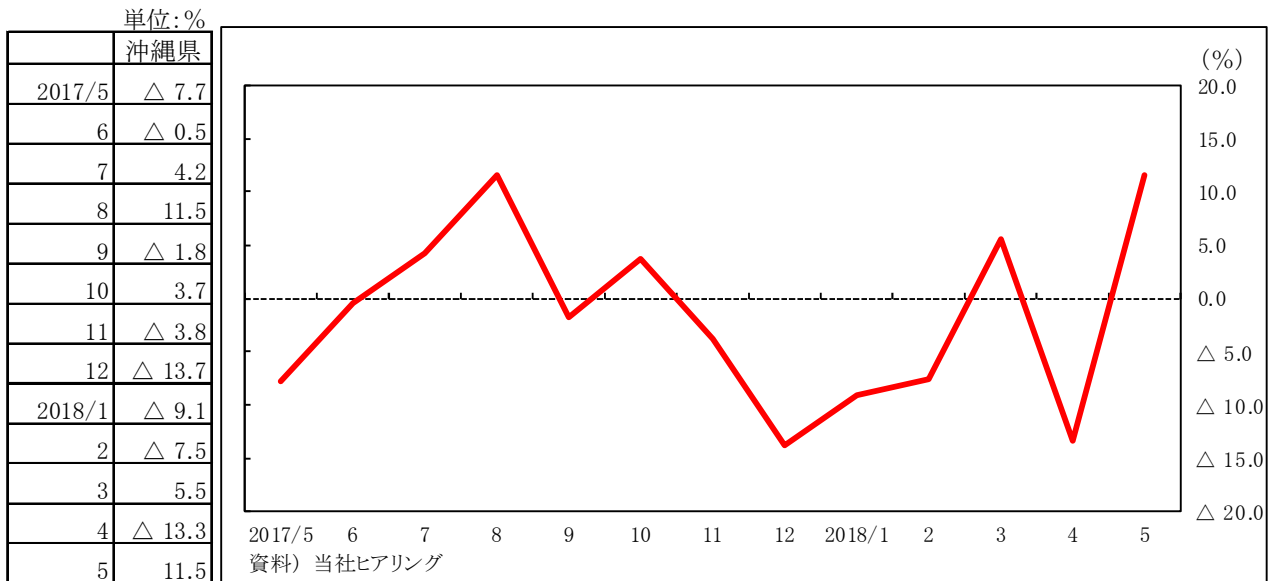
注) 前年同月比

5月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 1.6%増)」は、新規出店効果などにより「食料品(同 1.8%増)」、「家庭用品(同 2.4%増)」の売上が伸び、9ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 1.5%減)」は、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 1.8%減)」は、飲料が伸びたものの、新規出店による店舗数の増加などから、全般的に売上が減少し、前年同月を下回りました。「衣料品(同 2.1%減)」は、気温が高く推移し需要が増加した3月の反動などにより、夏物衣料の売上が伸びず、前年同月を下回りました。家電や雑貨など「家庭用品(同 0.4%減)」は、エアコンや化粧品などの売れ行きが堅調だったものの、全般的に伸び悩み、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、雑貨の売上が伸び、2ヵ月連続で前年同月を上回りました(同 2.6%増)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 2.9%減)」は、「紳士服(同 1.3%減)」、「婦人服(同 5.7%減)」でキャンペーン企画などの販促強化を図ったものの、売れ行きが伸び悩み、前年同月を下回りました。「食料品(同 4.4%減)」は、催事企画が後ずれしたことなどから、前年同月を下回りました。一方、「身の回り品(同 15.5%増)」、「家庭用品(同 18.1%増)」は、催事企画による売上が伸び、前年同月を上回りました。また、「雑貨(同 9.7%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより前年同月を上回りました。

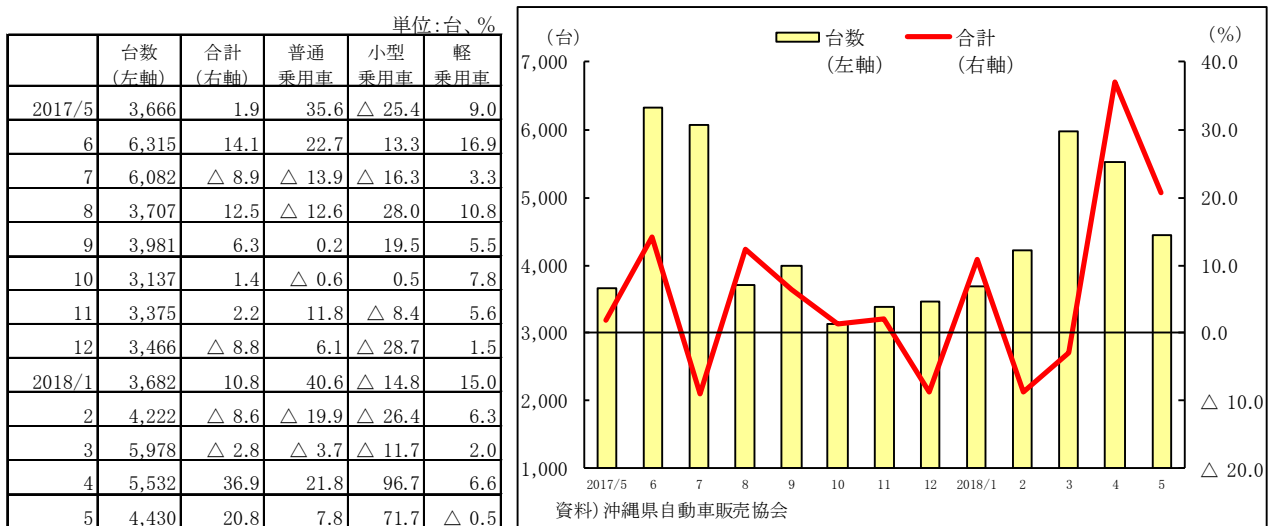
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、白物家電(冷蔵庫、洗濯機、エアコン)などの売れ行きが伸びたことから、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同 11.5%増)。品目別では、「テレビ(同 23.3%減)」は、高価格帯の商品が伸び悩み、前年同月を下回りました。一方、「エアコン(同 33.8%増)」は、前年より気温が高く推移したことから需要が増加し、前年同月を上回りました。また、「洗濯機(同 6.5%増)」、「冷蔵庫(同 5.2%増)」は、買い替え需要が堅調に推移し、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、2ヵ月連続で前年同月を上回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

新車販売台数は、全体で4,430台(同 20.8%増)となり、2ヵ月連続で前年同月を上回りました。車種別では、「軽乗用車(同 0.5%減)」は、需要が伸びず、15ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。一方、「普通乗用車(同 7.8%増)」、「小型乗用車(同 71.7%増)」は、自家用車需要が堅調に推移したことや、レンタカー需要の増加などにより、前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

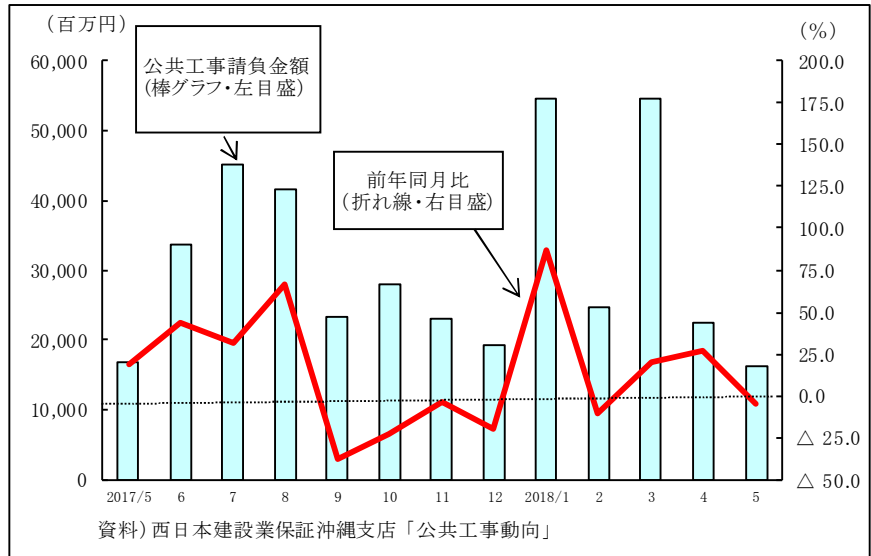


■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。

単位:百万円、%

	請負金額	前年同月比
2017/5	16,886	18.4
6	33,703	43.9
7	45,031	31.8
8	41,576	66.3
9	23,363	△38.3
10	28,073	△23.5
11	23,134	△3.7
12	19,275	△19.4
2018/1	54,569	87.2
2	24,674	△10.3
3	54,532	19.7
4	22,513	26.3
5	16,134	△4.5

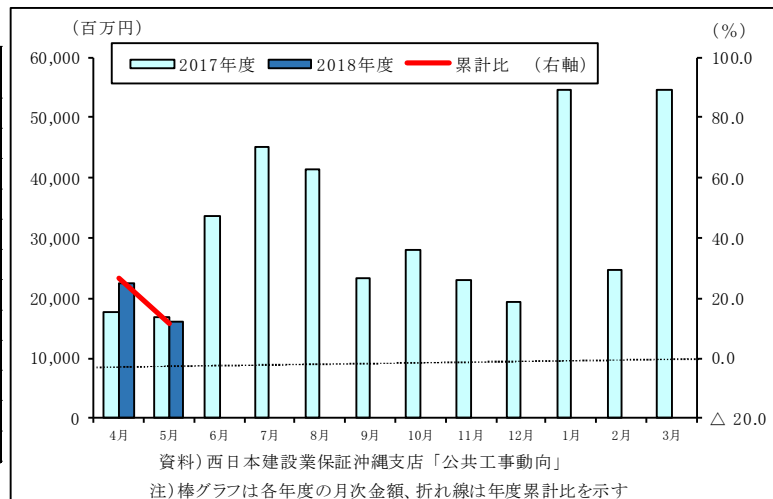


5月の公共工事請負金額は、前年同月比4.5%減の161億3,400万円となりました(3ヵ月ぶり減)。発注者別でみると、「独立行政法人等(同575.8%増)」や「市町村(同20.8%増)」は前年同月を上回りましたが、「国(同2.2%減)」や「沖縄県(同37.9%減)」、「その他の公共的団体(同93.5%減)」は下回りました。

【参考】公共工事（年度累計）・・・公共工事請負金額は前年同期を上回る。

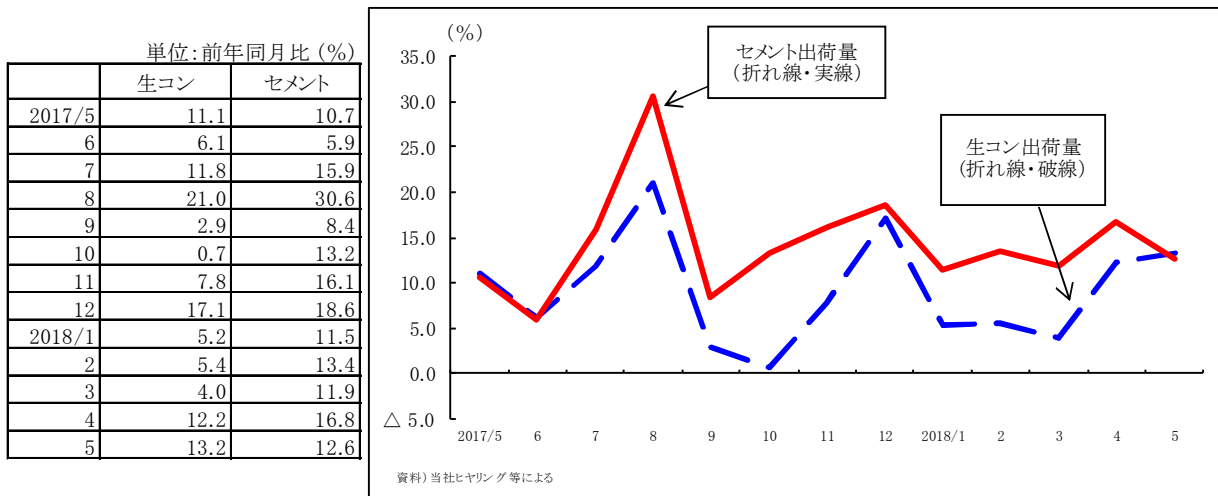
単位:百万円、%

	2017年度	2018年度	累計比 (右軸)
4月	17,823	22,513	26.3
5月	16,886	16,134	11.3
6月	33,703		
7月	45,031		
8月	41,576		
9月	23,363		
10月	28,073		
11月	23,134		
12月	19,275		
1月	54,569		
2月	24,674		
3月	54,532		



今年度累計値では、11.3%増となっています。(上記折れ線グラフ)

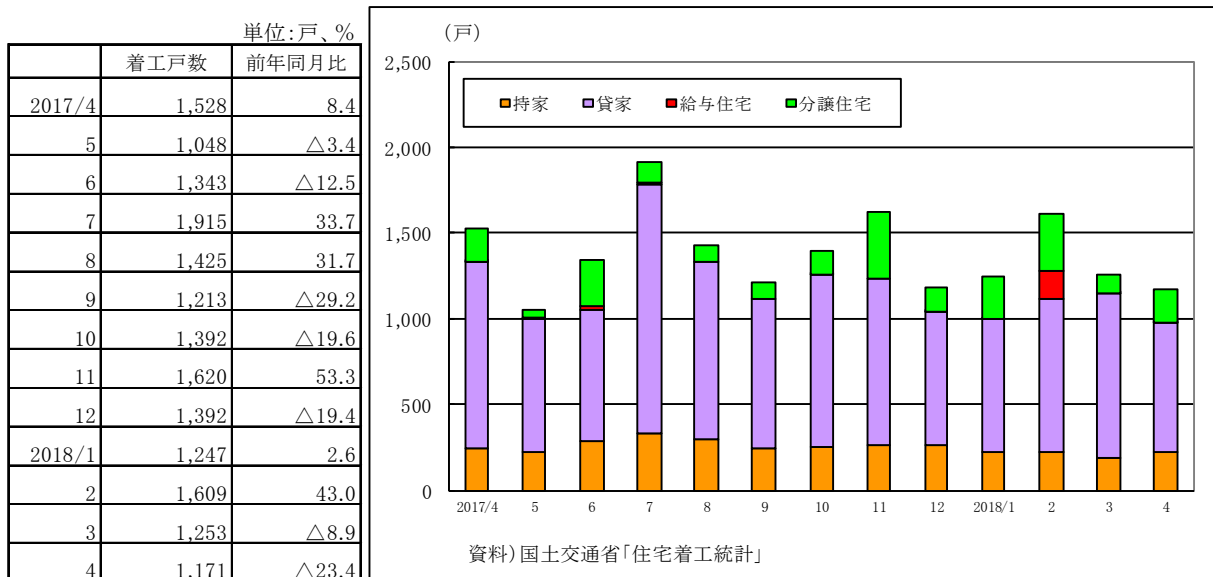
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を上回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

建設資材関連では、生コンの出荷量は13.2%増と15ヵ月連続で前年同月を上回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より2.4%下回ったものの、民間工事向け出荷が21.9%上回りました。セメント出荷量は12.6%増と18ヵ月連続で前年同月を上回りました。

【参考】住宅投資(4月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。

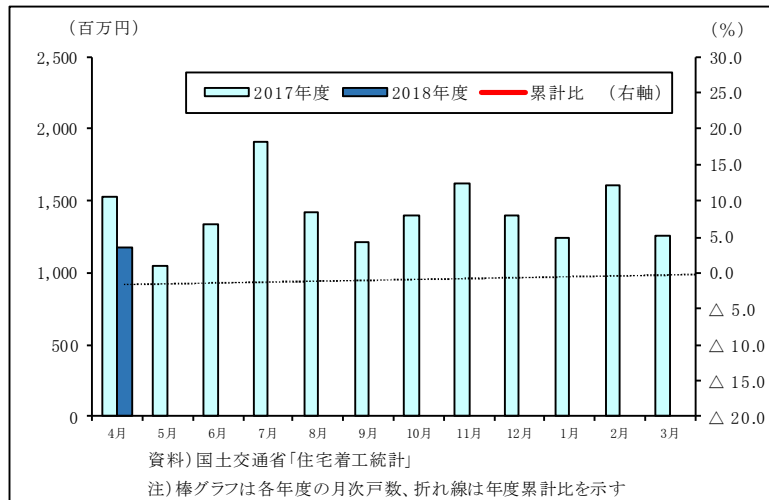


新設住宅着工戸数(4月)は、全体で前年同月比23.4%減の1,171戸と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、「分譲住宅(同1.6%増)」は前年同月を上回りました。一方で、ウエイトの高い「貸家(同30.4%減)」や「持家(同9.5%減)」、「給与住宅(同87.5%減)」は下回りました。

【参考】住宅投資（年度累計）・・・4月の着工戸数は前年同期を下回る。

単位:百万円、%

	2017年度	2018年度	累計比 (右軸)
4月	1,528	1,171	△23.4
5月	1,048		
6月	1,343		
7月	1,915		
8月	1,425		
9月	1,213		
10月	1,392		
11月	1,620		
12月	1,392		
1月	1,247		
2月	1,609		
3月	1,253		



年度累計でみると、4月単月のみで23.4%減となっています。

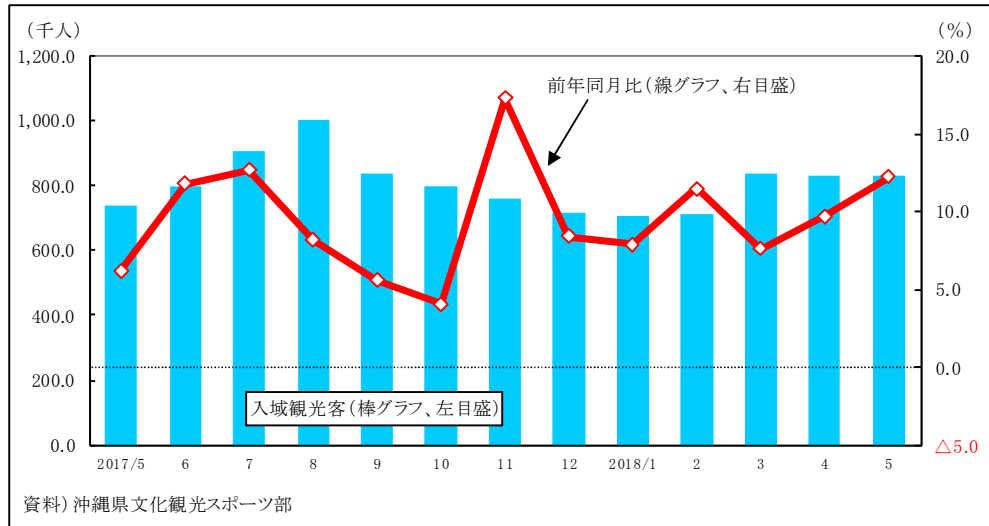


■観光関連： (良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・68ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2017/5	740.6	6.2
6	798.8	11.8
7	907.9	12.7
8	1,002.5	8.2
9	837.1	5.6
10	799.3	4.1
11	762.9	17.3
12	718.5	8.4
2018/1	704.3	7.9
2	711.4	11.5
3	837.4	7.6
4	833.2	9.7
5	830.9	12.2

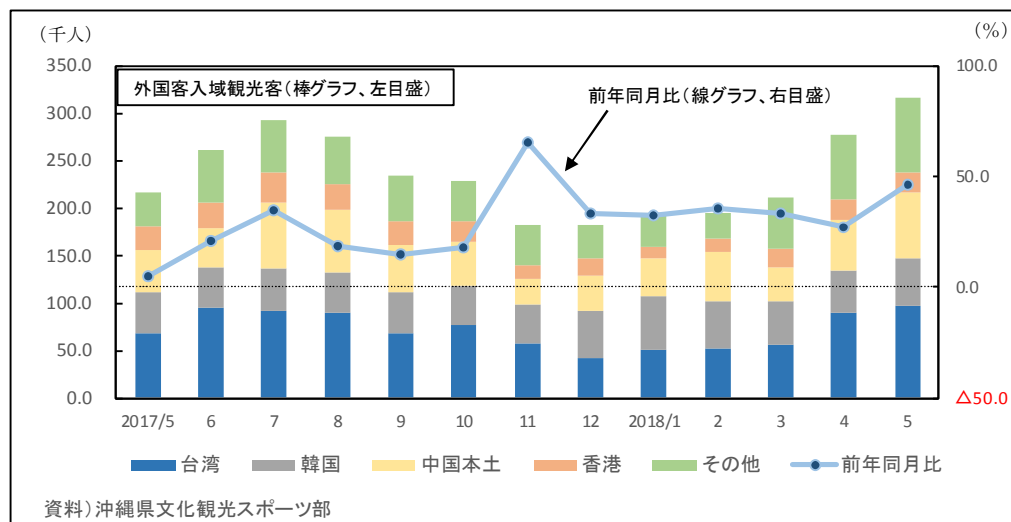
※外国客は乗務員等を含む



外国客 入域観光客数・・・15ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%		
	入域観光客	前年同月比
2017/5	216.8	5.0
6	261.5	21.1
7	292.7	34.7
8	275.7	18.8
9	233.5	14.8
10	229.2	17.7
11	182.4	65.5
12	183.1	33.5
2018/1	194.4	32.1
2	194.8	35.2
3	210.3	32.8
4	276.8	27.2
5	316.3	45.9

※外国客は乗務員等を含む



5月の入域観光客数は、90,300人多い830,900人(前年同月比12.2%増)となり、68ヵ月連続で前年同月を上回りました(5月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同1.8%減)」は514,600人と、離島直行便の実績が良好であったものの、ゴールデンウィークの休日数の減少や麻しん(はしか)患者発生の影響等により、7ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。

他方、「外国客(同45.9%増)」は、316,300人と15ヵ月連続で前年同月を上回りました。麻しん(はしか)患者発生の影響が懸念されたものの、航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数増加等により、前年同月を上回りました。

「台湾(同41.1%増)」「韓国(同17.3%増)」「中国本土(同54.7%増)」「香港(同12.1%減)」

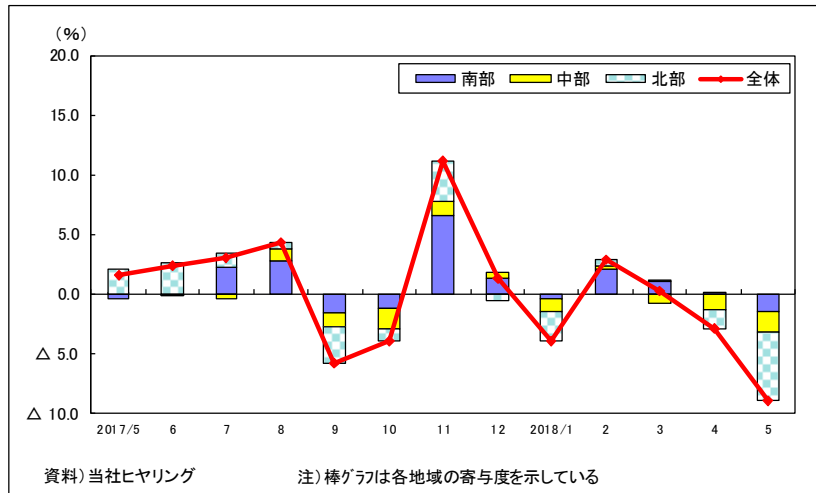
※乗務員等を除く2018年5月実績＝全体778,800人(同8.8%増)、外国客264,200人(同37.6%増)、国内客は変わらない。



② 観光施設入場者数・・・2ヵ月連続で前年同月を下回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2017/5	1.5	△1.2	0.04	4.2
6	2.4	△0.1	△1.3	5.0
7	3.0	6.7	△3.9	2.2
8	4.3	8.1	9.7	1.0
9	△5.8	△4.7	△10.5	△5.6
10	△4.0	△3.1	△14.5	△2.0
11	11.1	15.7	9.7	7.3
12	1.2	3.2	3.2	△1.2
2018/1	△4.0	△1.2	△7.7	△5.1
2	2.9	5.6	1.8	1.2
3	0.2	2.6	△7.0	0.1
4	△2.9	0.1	△11.3	△3.1
5	△9.0	△4.0	△14.6	△11.7



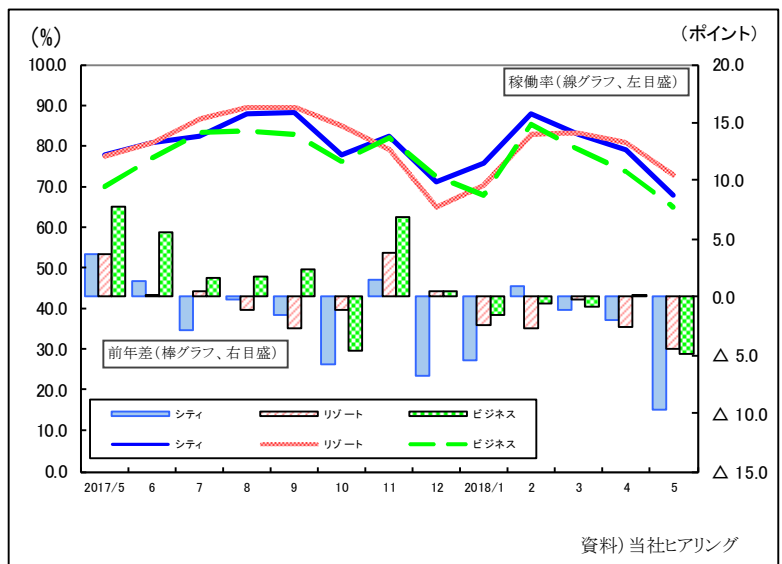
※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設  
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より9.0%減少(2ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同4.0%減と4ヵ月ぶり、中部は同14.6%減と3ヵ月連続、北部は同11.7%減と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2017/5	77.6	77.2	69.9	3.6	3.7	7.7
6	80.5	80.8	76.9	1.4	0.1	5.6
7	82.2	86.6	83.0	△2.9	0.4	1.7
8	87.6	89.4	83.8	△0.2	△1.1	1.8
9	88.0	89.3	82.8	△1.5	△2.8	2.4
10	77.6	84.9	76.3	△5.8	△1.1	△4.6
11	82.4	78.9	81.8	1.5	3.8	6.8
12	71.2	65.0	72.5	△6.8	0.5	0.5
2018/1	75.8	70.5	68.0	△5.5	△2.4	△1.6
2	87.8	82.8	85.2	0.9	△2.7	△0.5
3	82.8	83.0	79.0	△1.2	△0.2	△0.8
4	78.9	80.5	73.6	△2.0	△2.6	0.2
5	67.9	72.8	65.0	△9.7	△4.4	△4.9



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

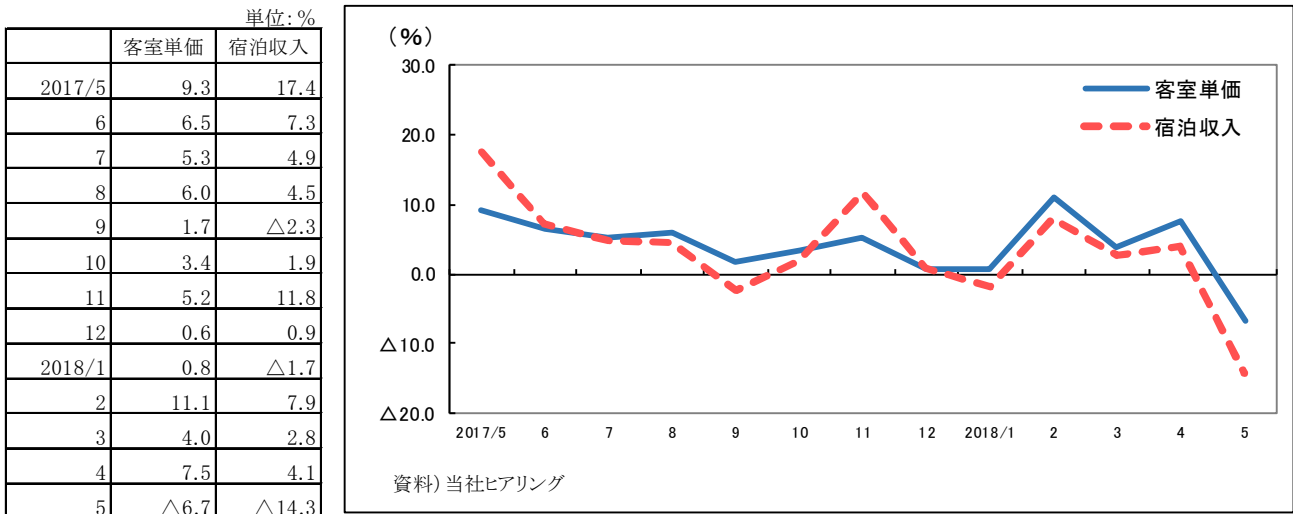
注) 2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは6ホテルとなっている。

注) 2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが67.9%と9.7ポイント減少(3ヵ月連続)、リゾートホテルが72.8%と4.4ポイント減少(5ヵ月連続)、ビジネスホテルが65.0%と4.9ポイント減少(2ヵ月ぶり)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2018年1月より、シティホテル対象施設数に変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

**ホテル客室単価**(シティ&リゾート)は前年同月比 6.7%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同14.3%減と前年同月を下回りました。

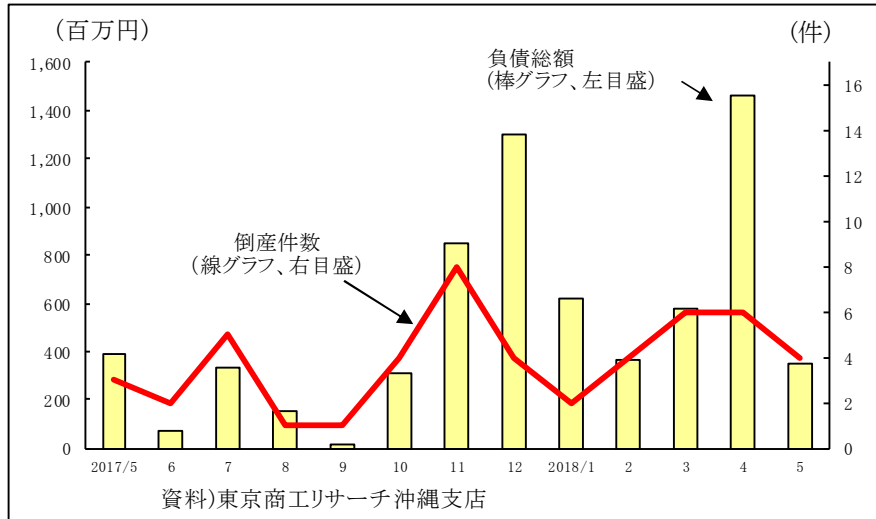


■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数は前年同月を上回り、負債総額は下回る。

単位：百万円、件

	負債総額	倒産件数
2017/5	391	3
6	70	2
7	334	5
8	157	1
9	16	1
10	307	4
11	852	8
12	1,299	4
2018/1	620	2
2	366	4
3	576	6
4	1,467	6
5	347	4



5月の企業倒産件数は、4件(うち大口倒産は2件)となり、同33.3%増と前年同月を上回りました。  
負債総額は3億4,700万円となり、前年同月より11.3%減少しました。

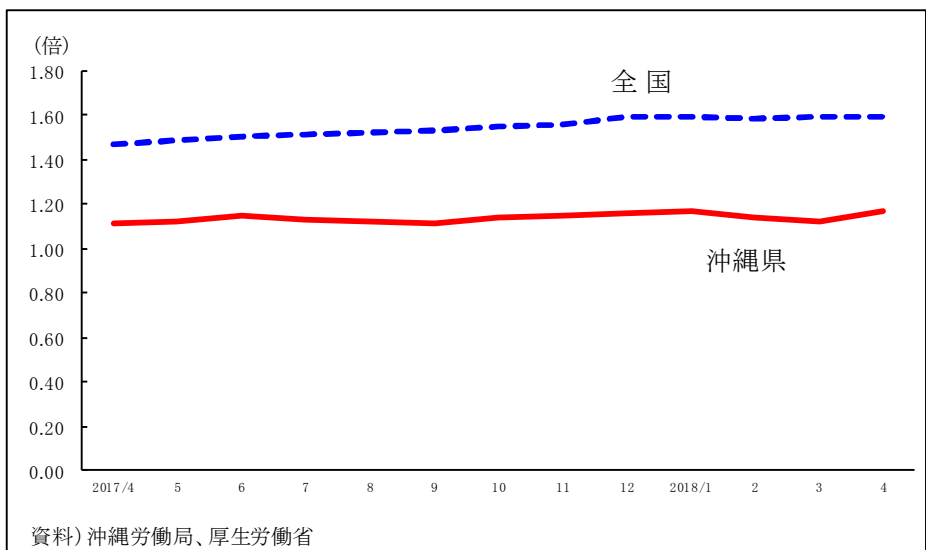


【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(4月)・・・沖縄は前月より上昇、全国は同水準。

単位：倍

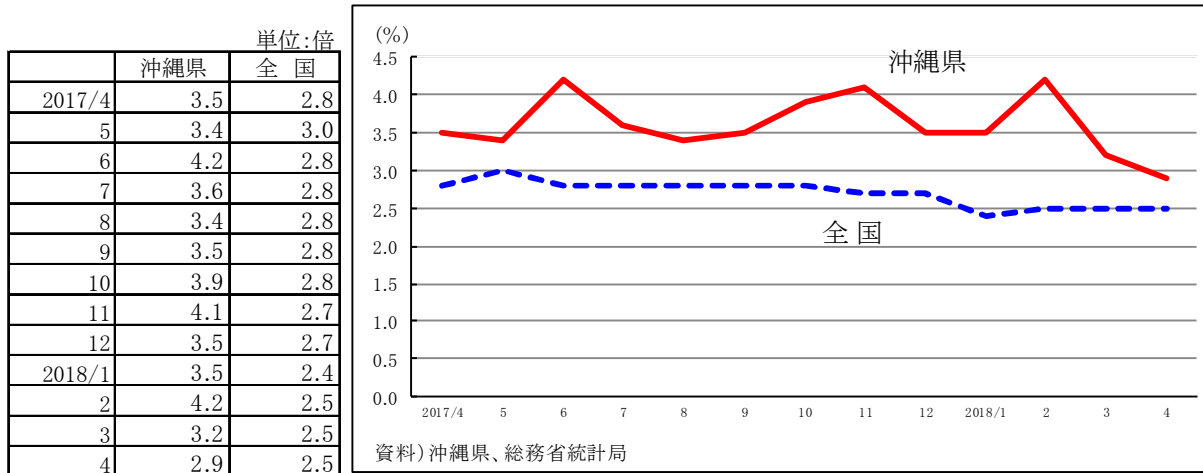
	沖縄県	全国
2017/4	1.11	1.47
5	1.12	1.49
6	1.15	1.50
7	1.13	1.51
8	1.12	1.52
9	1.11	1.53
10	1.14	1.55
11	1.15	1.56
12	1.16	1.59
2018/1	1.17	1.59
2	1.14	1.58
3	1.12	1.59
4	1.17	1.59



注) 季節調整済

4月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比2.0%増の28,774人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比2.6%減の24,534人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.17倍となり前月より0.05ポイント上昇しました。

完全失業率（4月）・・・沖縄は前月より低下、全国は同水準。



注) 季節調整済

4月の完全失業率(季節調整値)は、2.9%となり前月より0.3ポイント低下しました。